

令和 5 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 10			学校名		県立友部東特別支援学校										学校長名			大槻 晋吾					
副校長名						教頭名		會澤 貴之					事務（室）長名			谷田部 美紀								
教職員数	教諭	38	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	1	実習助手	2	寄宿舎指導員	0	事務職員	3	技術職員等	3	SSS	1	計	57				
児童・生徒数	部	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数								
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女									
	小学部	3	1	0	1	1	1	2	3	1	1	3	0	10	7	7								
	中学部	3	4	3	2	3	0							9	6	7								
	高等部	4	0	2	1	3	1							9	2	4								
	計														28	15	18							

訪問教育	病院名			小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	合計			
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	
	県立こども病院			2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	7
	県立こころの医療センター			0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	3
	筑波大学附属病院			1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	6
	県立医療大学付属病院			0	0	0	1	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	10
	土浦協同病院			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計			3	1	0	1	1	2	3	1	1	3	0	2	3	1	26	

2 目指す学校像

- ◆こころとからだにやさしく寄り添う学校
- ◆「夢や希望」に向かって自分らしく成長できる学校
- ◆信頼とつながりを大切にする学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導 専門性の向上	・Co-MaMe（こころの病気のあるこどもへの教育支援）等のアセスメントを活用し、各部で月1回程度研修を行い、実態把握や学習評価等に基づいた授業づくりに生かすことで、教員間で共通理解を図り、児童生徒一人一人に応じた適切な支援を行っている。特に新転入生については、8月と12月にアセスメントを行い、2回の結果を比較し、授業づくりに生かしている。 ・ICT機器を授業で積極的に活用し、多様な授業展開により、児童生徒の学習に対する興味・関心を喚起し、学習意欲の向上とともに、児童生徒が考えや思いを表現しやすい環境を作ることができている。タブレット端末が一人1台ずつ整備されたことやポケットWi-Fiが2台から4台に増えたことで、本校だけでなく訪問学級においても、ICTを活用し一人一人に応じた学習ができている。 ・Web会議システムやICT機器を活用して、地域の学校や特別支援学校の生徒と学校間交流を実施している。また、訪問学級においては、前籍校とオンラインによるグループ学習等を行い、より広範な交流を深めることができている。	Co-MaMe等のアセスメントツールをさらに効果的かつ効率的に活用できるように改善を図っていききたい。そのためにも学部全体で実態把握を行い、支援方法を協議し、共通理解のもとによりよい支援をしていく必要がある。 教員間でICT機器を活用した授業の事例を共有したり、使用しているアプリ等を参考にしたりして活用能力を向上させることが求められる。 Web会議システムを活用した交流は、相手校との日時の設定や通信環境の整備をしていく必要がある。また、交流の多様性を確保し、異なる形式や方法を組み合わせて、より豊かな交流の機会を考えていきたい。
進路指導	・年3回程度、他校の生徒と一緒に作業製品を販売する機会を設けることで、他者を意識した挨拶や容姿、言葉遣いを心がけて取り組む様子が見られている。また、活動をとおして、自己選択や自己決定の機会を提供することで、児童生徒が積極的に取り組む姿勢が向上している。 ・職場体験や現場実習、学校見学で進路を見据えた実践的な学習を実施し、社会的な経験を広げることができている。高等部生だけではなく、小中学部生についても必要に応じて福祉との連携を密に図り、在学中から卒業後の支援につなげることができている。	校外での販売活動はその教育的効果から一時的なイベントではなく、年間指導計画に位置付けていく。児童生徒の意見等を収集し、活動の成果や課題を評価する仕組みを確立していく必要がある。 児童生徒自身が、仕事や職業についての見学や体験を通して、身に付けてほしい力や感じてほしいことを実感できるような指導・支援のさらなる充実に努める。
保健安全指導	・新型コロナウイルス発生時には、対策委員会を設定し、学校医や教職員間で連携を図ることで、速やかに対応することができている。また、緊急情報メールの活用により、情報共有と対応の迅速化を図っている。 ・コロナ不安で登校できない生徒にはオンライン授業を提供し、登校できる場合には環境作りに配慮している。 ・各訪問学級では病室に入る前には必ず手指の消毒を行ったり、学習後には毎回、教具のアルコール消毒を行ったりすることを徹底している。	新型コロナウイルス感染に伴う対応については、国や県の通知文または他校の状況を鑑みながらも、病弱特別支援学校の特性を踏まえて対応していく必要がある。 災害時の避難経路や引き渡しルートを見直し、必要に応じて学校周辺の近隣施設の協力を仰ぎながら、児童生徒の実態に合った計画を策定していく。

生徒指導	・年4回、スクールカウンセラーによる教育相談を実施している。助言を得て、児童生徒や保護者の悩みに寄り添いながら、安心できる学校づくりに努めている。 ・いじめ防止方針を見直し、全教職員への周知と、「いじめの認知」を「不安・悩みの認知」とし積極的に推進することで早期対応し、重大化の防止に努めている。 ・不安・悩みに関するアンケート及び聞き取り調査を学期に1回実施し、児童生徒の様子や変化を読み取り、いじめの未然防止に努めている。 ・心情不安による生徒の急な飛び出し等の事案を受けて、緊急時の役割や動きを事前に確認し、令和5年度の年間行事に位置付けている。	多様な背景をもつ児童生徒への生徒指導については、相談支援部と連携をさらに図っていきたい。 アンケート調査や聞き取り調査の回答内容を集計し、不安・悩みの主な要因や変化の把握に努める。さらに、調査結果を適切に活用して早期支援や予防につなげていきたい。 訓練内容が実際の状況適しているかどうかを確認する必要がある。緊急時の対応が円滑に行われるためにも、関係職員がその対応や連絡手段について正確に理解しておく。
------	---	--

4 中期的目標

1 医療との連携により、病弱教育の専門性の向上に努める。 2 多様な学びの場において、児童生徒がよりよく学ぶ環境を整え支援にあたる。 3 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒一人一人の状態に応じた学習を推進する。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
○自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実	①基本的生活習慣(挨拶・整容・姿勢・言葉遣い・時間管理等)と豊かな心の育成 ②切れ目のない支援と、系統的なキャリア教育の推進 ③進路選択を促す体験的な学習の充実と実践 ④進路相談の充実及び個に応じた適切な進路指導 ⑤地域交流・学校間交流・居住地校交流等の交流 及び共同学習の推進

○一人一人の個性や特性及び状態に応じた指導・支援の充実	⑥子どもの気持ちの理解と、学習空白に対応した適切な指導・支援 ⑦教育的ニーズに応じた柔軟な対応と分かる授業の実践 ⑧自立活動の指導内容を意識した教科指導の充実 ⑨各授業における ICT の有効的な活用
○病弱教育の専門性の向上	⑩確かな専門性を踏まえた一人一人に寄り添う支援 ⑪校内研修等の充実による、専門性の向上 ⑫福祉等、関係機関との連携・協働を通じた、支援の充実 (学校病院連絡会・復学支援会議・校内教育支援会議等)
○センター的機能の充実	⑬県内唯一の病弱特別支援学校として、組織的な支援を推進 ⑭教育相談及び入試相談の充実 ⑮病弱教育の積極的な発信 ⑯個別の教育支援計画及び個別の指導計画作成と活用の支援
○安全・安心な学校づくり	⑰心の居場所となる安心して学べる学校づくり ⑱いじめの予防的取り組みと組織的対応の充実 ⑲感染症等対策の徹底 ⑳危機管理マニュアル等の評価・見直し・改善 ㉑働き方改革を推進するための業務の見直し・改善